

行/事/予/定

3月

- 3月20日(木) 大歳小学校 卒業式【大歳小学校】
- 3月21日(祝・金) 春分の日
- 3月26日(水) 大歳小学校 修了式【大歳小学校】
- 3月26日(水) 鴻南中学校 修了式【鴻南中学校】



招 招 と し か わ の 路

Information

■ 交流列車おおとし写真パネル展開催中

交流列車おおとし(大歳駅構内)の改札前待合室で、3月末まで、大歳自治振興会自主事業の写真パネル展が開催されています。

昨年11月30日、大歳地区青少年健全育成協議会の主催で行なわれた「ザ・チャレンジ大歳ふるさとウォッチング」の様子をパネル展示しています。晴天に恵まれ、多くの親子の参加をいただき、大変好評を得た催しです。是非ご覧ください。

なお「交流列車おおとし」は、大歳自治振興会が山口市から委託を受けて管理運営している施設で地域づくりの拠点として、地元ボランティアの会や自治会の会合など、地域コミュニティや世代を超えた交流の場として利用されています。ご利用を希望される団体は、大歳ワークステーション(☎083-922-6860)へお申し込みください。



交流列車おおとし(大歳駅)改札前にある掲示板の前で

編集後記

大歳は山口と小郡の中間点で、一貫して交通の通過点であった。通過点だから文化や財物の集積は少ないが、旅人の足を止めさせようと様々な取り組みが行われてきた痕跡は見受けられる。歴史的には少々あやしげだが、江戸期の在地民衆の知恵が生み出した名所物語と考えれば、その知恵には感心する。そうした歴史や文化の学び方もあって良いのではなかろうか。(武波)

■ 自転車は車道の左側通行が原則です

平成25年12月1日より、道路交通法の一部改正により、原則として、自転車は車道の左側通行となりました。

ただし、「自転車歩道通交可」の標識のある歩道、「13歳未満の子供」「70歳以上の高齢者」「身体が不自由な方」は、歩道(左右)通行が許されています。

自転車の違反の罰則としては、「信号無視」「一時不停止」は3カ月以下の懲役、または5万円以下の罰金。「二人乗り(幼児同乗は可)」「並進」は2万円以下の罰金、または料料。「無灯火」は5万円以下の罰金。「飲酒運転」は5年以下の懲役、または100万円以下の罰金となっています。

■ 自転車の事故も多発

15歳のA君は自転車のスピードをゆるめずに坂道を下り、三差路で出会いがしらに72歳の老女と衝突しました。老女は歩道の側溝に落ちて頭を打ち、病院に運ばれましたが死亡される事故がありました。

その死亡事故は賠償の問題となり、裁判の結果、両親に1,500万円の賠償金の支払い判決がくだりました。

■ 鴻南中生徒が矢原駅駐輪場を点検

2月28日(金)に鴻南中学校の少年リーダーズ活動の一環として、生徒の皆さん(1年3組・4組)が、JR矢原駅駐輪場で「自転車に鍵をかける注意喚起の札付け」や「駐輪場内のごみ拾い」などを行いました。また、作業終了後、矢原駅から中学校までの帰り道もごみを拾いながら歩いたそうです。お疲れ様でした。



駐輪場のごみ拾いをする鴻南中生徒の皆さん

まちづくり かわら版 おおとし 2014.3 Vol.26

おおとし見守り隊が発足…大歳小児童と顔合わせ式

地域の見守り隊として

2月6日(木)大歳地域交流センター講堂において、今年度計画されていた子どもから高齢者までの安全を見守るための「おおとし見守り隊」が、こども部会(部会長 馬越帝介)のお世話で発足しました。馬越さんは、「隊員になっても強制ではなく、“できるときに”“散歩がてらに”“気楽な気持ちで”参加していただけたら」と述べておられました。

隊員は、一般公募のボランティアと民生委員・児童委員等の皆さんで総勢41名が登録され、今後の活動や小学校での対面式の段取り等について説明がありました。今年度は小学生の見守りを優先し、次年度以降は、女性や高齢者らを危険から守る活動も開始していく予定です。



見守り隊と一緒に集団下校する子ども達

子ども達と初顔合わせ

2月13日(木)大歳小学校(磯村 勇校長 742人)で、緊急時を想定した集団下校のときに、おおとし見守り隊との顔合わせ式を行いました。この日は、約30名の隊員が、専用の帽子、ベスト、腕章、たすき、名札を着用して、一緒に下校し、子どもたちの安全を見守ったり、車の多い交差点での立哨を行いました。子どもたちも、これに答えて大きな声で元気な挨拶を返していました。

大変素晴らしい取り組みで、顔合わせ式以降毎日立哨されている方も見受けられます。

隊員は、一般公募でしたが、なかなか参加される方が少ないように思いました。こんなところにも、人間関係の希薄化や地域共同体の脆弱化、人のつながりの弱体化を感じました。そうならないためにも、おおとし見守り隊に登録をお願いします。申し込みは、随時受け付けていますので、大歳自治振興会事務局へお問い合わせください。(☎920-1700)



▲ おおとし見守り隊の皆さん

▼ 磯村勇校長先生のあいさつ



▲ 三井裕副会長のあいさつ

顔合わせ式(大歳小学校校庭)▶





「あいさつ運動」の標語が選ばれました



「みんなが誰とでも積極的にあいさつを交わしている」大歳地区を目指して、先般「あいさつ運動」の標語の募集を行い、多数の応募をいただきました。厳正なる審査の結果、次の作品が選ばれました。

最優秀賞の秋穂由香さんに作品への思いを伺ったところ、「あいさつを通して、気軽に声がかかええるまちになったらいいな。」という思いを込めて作ったそうです。次に、自治会活性化部会の勝井さんに「あいさつ運動」について伺いました。

「あいさつ運動」に取り組もうとしたきっかけは？

昨年の住民座談会で、多くの方から地区内で「あいさつがあまり交わされていない」との意見がありました。そこで、「あいさつ運動」に取り組み、その第1弾として「あいさつ標語」の募集をしました。



自治会活性化部会 部長 勝井勝治さん

今後の取り組みは？

最優秀作品は、横断幕にして地域内に掲示します。

優秀賞の作品については、のぼり旗等にして地区内に掲示する予定です。

「あいさつ」に対する思いは？

あいさつとは、人に会ったときや、別れるときなどに取り交わす礼になった言葉や動作をいいます。見知らぬ人にあいさつをすれば、顔見知りになり、友達にもなれます。気持ちのこもったあいさつを今日から始めましょう。

最優秀賞

おおとしは 元気なあいさつ ひびくまち

岩富 秋穂由香さん

優秀賞 6点

〈小学生の部〉

いつまでも 笑顔のために あいさつを！ 大歳朝田ヒルズ 藤井玲奈さん

〈一般の部〉

あいさつは 幸せ運ぶ 合言葉 下湯田 景山雄大さん

あいさつで まちに笑顔が 増えていく 下矢原 松本喜代美さん

おはよう!!は おおとしみんなの あい(愛)ことば 中矢原 大窪正行さん

あいさつは 人とひとをつなぐもの 下湯田 幸坂美枝子さん

あいさつと笑顔がとびかう明るいまち おおとし 勝井 勝井令子さん

1自治会1事業……自治会の活性化やコミュニティの増進を図るため、各自治会が独自に行うふれあい活動などです。今年も実施された自治会を随時、紹介してまいります。お楽しみに!

活動紹介 3

下湯田自治会

平成26年1月5日

今回は、下湯田自治会の「凧づくり教室」を紹介します。下湯田自治会長の岡村照男さんにお話を伺いました。



下湯田自治会長の岡村照男さん

開催日が1月5日(日)だったこともあり、母親の実家などに帰省して、町内におられないご家庭が多い時期なので、人が集まるかどうか気掛かりだったそう

です。定刻過ぎ頃から親子揃っての参加が増え、また高齢の方のご協力もあって「凧づくり」は順調に進みました。

岡村さんは「子どもたちの夢中に取り組む姿が、いまだに目に浮かびます」、「前任の平田靖士自治会長が始められた“親子工作教室”を引き継いだもので、当日も平田さんご夫妻に手伝ってもらいました。これからも下湯田自治会の三世代交流の場として継続したいものです」と熱心に語られました。



「凧づくり教室」に参加された皆さん



凧づくりの様子



自治会長・防災委員合同会議

・東日本大震災に学ぶ
・阿東災害ボランティア 報告

2月20日(木)交流センターで開催されました。大歳自治振興会のこども部会が中心となって昨年実施した「東日本大震災に学ぶ」の報告がありました。最初に、参加した小学生6名が、東北に行き行って感じたことや震災跡を見て感じたことを発表し、その後現地の写真の説明がありました。子どもたちは、「思っていたのと現地での状況がすごく違っていった」「忘れてはいけない」「覚えて繋いで行こう」「実際に現地を見て災害のすごさを感じた」「地域(大歳)でもこの経験を生かして、防災について、考えていき



「東日本大震災に学ぶ」に参加した小学生たち

阿東災害ボランティアの報告

たい」「高放射線により外で遊べない子どもたちの気持ちを考えると悲しい」など感想を述べていました。

今後はこの経験を生かして福島や東北との交流をつないでいくことの大事さが伝わってきました。

引き続き、阿東地区災害ボランティアへの参加報告がありました。8月16・17・18日の3日間、大歳地区で初めて災害ボランティアを募集し、45名の方が参加されました。10代から70代までの方が参加され、地域がまとまったのボランティアに大変心強さを感じました。皆さん、大変ご苦労様でした。

- 参加者のコメント:「暑くてえらかったが、被災者のことを思うと頑張れたし、帰るときの被災家族の皆さんのお礼に、疲れも吹っ飛びました。」「同じ、大歳の中でも災害時には、皆で対応していかないとイケん。」「人の役に立って、よかった充実感と満足感でいっぱい」などなど
- 被災者のコメント:暑い中同じ地域の方々が、連続でお手伝いに来ていただきありがとうございます一言につきます。皆さんのことは忘れることはできません。ありがとうございました。
- 阿東地域の声:阿東の方まで地域の方が、まとまってしかも自治会の皆さんが来ていただいたことに感謝をしています。同じ山口市ということでもあり、本当にうれしく思っています。
- 災害ボランティア主催者のコメント:皆さんがまとまったということ、まだまだつながりはあるなとも思いました。参加された皆さん本当にお疲れ様でした。

大歳 歴史の散歩道

石州街道 vol.4

石州街道は橋詰で吉敷川を渡りました。江戸時代の文書には「黒川石橋八長廿二間、幅一間一尺」と書かれています。一尺=30.3cm 一間=六尺ですから、当時としては長くて立派な橋です。

ところで、関屋橋も黒川橋も石橋です。石州街道の橋の大半は木橋や土橋ですから、なぜ大歳の橋が石橋なのか。石材が得やすかったのかそれとも重要な橋として石造りとされたのか、などと想像してみましたが、理由は簡単でした。江戸期の文書によると享保期からの150年間で57回もの洪水に襲われているのですから、この洪水に対応するためには石橋が

必要だったのでしょう。

吉敷川は、現在の大歳橋の下流で三作側に張り出し、そこで反転して榎野川に直角に流れ込んでいることが、頻繁に起こる洪水の原因でした。明治期に林勇蔵らが中心になって、橋詰から榎野川に並行するよう吉敷川の流れを大きく変えました。

更に国鉄(現JR)大歳駅の開設に伴い、駅からまっすぐ延びる道が石州街道まで造られました。それまでの黒川橋では、一端下流に下らなければならないため、この新道の延長上に大歳橋が造られました。こうした2つの工事で、あたりの景観は全く変わってしまいました。たぶん吉敷川は、今よりはるかに河原の広い川で、低くて曲がりくねった土手の続く風景だったのではないのでしょうか。



「昭和十年十二月」「おほとしはし」と書かれた左橋台の石
「おほとしはし」と書かれた右橋台の石



大歳橋(大歳橋の川下に黒川橋があった)